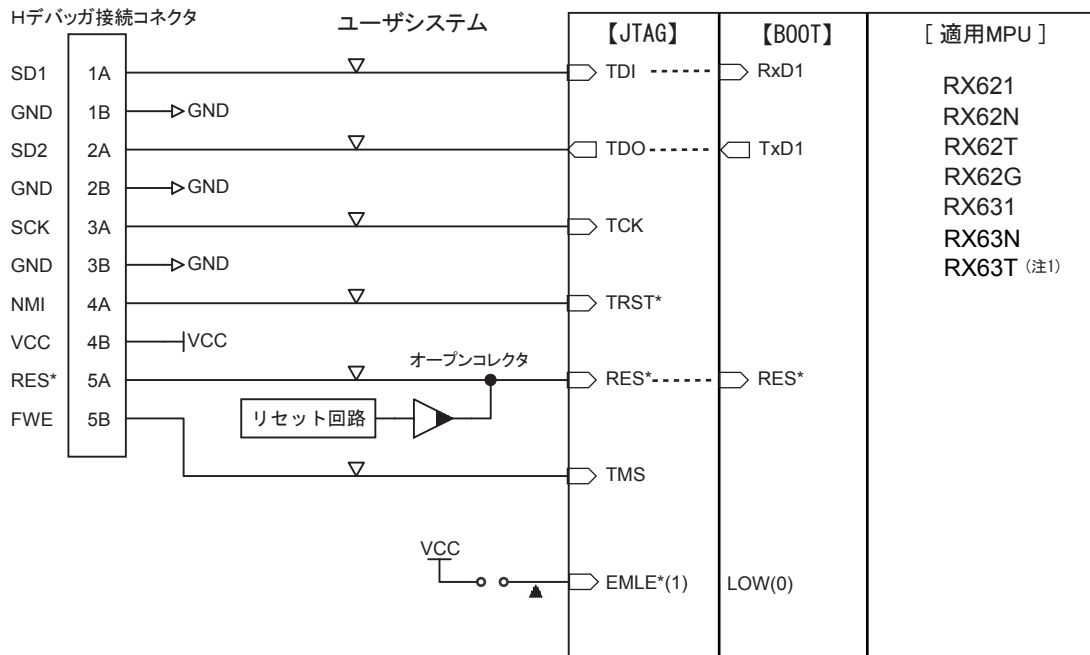


【接続例30】RX600シリーズの場合(JTAG/BOOT接続)



- ▽印はプルアップ抵抗です、▲印はプルダウン抵抗です。抵抗値は4.7K~22Kの範囲を推奨します。
 - リセット回路の遅延時間は、200mSEC以下になるハードを設計して下さい。
 - EMLEを切り替る回路(エミュレーション:HIGH 実動作:LOW)は、ユーザ側で用意して下さい。
 - RES*信号はH-debuggerから制御(出力)していますので入力になります。
 - BOOT接続はプロテクトIDコードの設定ミス等により不明となりJTAG接続が不可能になった場合の解決策として、フラッシュROMを全消去する時に使用します。
- (注1)BOOT接続で112pin品種のTDI/TDOは、RxD1/TxD1と違うピン配置になっています。